

## 調査報告 : edX の最新動向～Open edX Conference 2016 への参加～

2016/07 報告者 助教 大浦 弘樹

### 【はじめに】

早稲田大学は、2015年に海外を中心に800万人のユーザをもつ大規模公開オンライン講座(MOOCs)の1つedX([www.edx.org](http://www.edx.org))に参加し、大学総合研究センターでは創造理工学部の柴山知也教授と共同で第一弾講座を開講するなど、Waseda Vision 150の核心戦略の1つである「教育と学修内容の公開」に資する活動を行っています。

edXは、自身のプラットフォームのオープンソース版であるOpen edX([open.edx.org](http://open.edx.org))を公開しており、世界中で500万人以上のユーザがOpen edXを活用したMOOCで学んでいるとされます。このOpen edXを活用する大学や企業の関係者が集まり、最新動向について情報交換を行うOpen edX Conference(6/14-17に米国スタンフォード大学で開催)に参加してきました。

本会議では、edXのアナント・アガルワル(Anant Agarwal)会長によるスピーチをはじめ、Open edXの最新機能の紹介や大学や企業での活用事例などの発表や議論、研修が行われました。本報告では、その中でもedXコミュニティが特に力を入れている、グループ学習機能と試験機能の強化について紹介します。

### 【グループ学習機能の強化】

従来のMOOCではユーザは個人で講義を視聴するか、掲示板で他の受講者とやりとりするかのみで、講座側でグループ学習を支援する仕組みが不足していました。この課題の解決に向けて、edXでは最近「チーム機能」と「相互教授機能」が追加されました。チーム機能とは、講座側で設定したテーマに沿って受講者が自発的にチームを組んで課題に取り組める機能です。

また、ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)はハーバード大学のマズール教授が考案した相互教授法(peer instruction)を講座内で実施できる機能を開発しました。本機能では、受講者がある選択式課題に解答する際にそれを選んだ理由を書いて提出すると、各選択肢を選んだ他の受講者の説明が表示され、それを読んだ上でもう一度自身の解答を選ぶことができ、受講者の批判的な思考を促進することができます。



Open edX Conference オープニングの様子

### 【試験機能の強化】

MOOCの課題の1つである受講者の不正行為を防止・発見するため、edXでは試験機能の強化に力を入れています。その1つである時間制限付試験機能では、試験を開始するまで内容を見ることはできず、一旦開始すると指定された時間内でしか受験できない仕組みになっています。また、予め試験問題のデータベースを構築し、その中からランダムに出題することも可能になりました。

また、試験監督(proctoring)機能も導入され、受験中にパソコン画面等を記録し、試験終了後に専門スタッフが記録をチェックすることで不正行為がないかを確認(有料)できるようになりました。このような試験機能が強化されることで、edXの修了証の学術的高潔さ(academic integrity)の保証が期待されます。

### 【おわりに】

大学総合研究センターでは、現在、大学院日本語教育研究科の戸田貴子教授とともに、第二弾講座「Japanese Pronunciation for Communication(JPC)」を制作しています。本講座では、日本の文化的なコンテキストの中で話者の意図を伝える日本語の発音を学ぶことができる内容になっています。ご本人、または周りに日本語を学んでいる方がいましたら、ぜひ受講をご検討ください([JPC受講登録画面へ](#))。